

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名 東住吉区
学校名 大阪市立矢田西小学校
学校長名 亀川 育寛

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただきため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立矢田西小学校では、第6学年 39名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

昨年度は国語科・算数科とも、平均正答率は大阪市、全国平均より下回っていたが、今年度は国語科・算数科とも、平均正答率は大阪市、全国平均より上回った。特に本校の研究教科である算数科については大阪市平均より12ポイントも高い結果を得ることができた。平均無解答率についても、国語科・算数科とも全国平均より少なかった。領域別の平均正答率では、国語科は全体的に大阪市、全国平均を上回ったが、特に「話す・聞く」については大阪市平均より11ポイントも上回った。しかし、「書くこと」については大阪市、全国平均より15ポイント以上下回っており課題が明白であった。算数科についてはすべての領域で大阪市、全国平均を上回った。特に「数と計算」については大阪市、全国平均を大きく上回っており、得意領域となっている。

質問紙は、人権感覚、話合い活動に関する項目の肯定的な回答がいずれも高い数値となっており、大阪市、全国平均を上回る結果となった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】 平均無解答率は、漢字以外は低く、年々粘り強く問題解決に取り組む姿勢が身についてきている。各項目については、「書くこと」以外は大阪市・全国平均を上回っており、基礎・基本が定着しつつあることがうかがえる結果となった。「書くこと」については、昨年度も大阪市・全国平均を大きく下回っている。書く力が十分に身についておらず、本校の課題であることが分かった。

【算数】 昨年度は大阪市・全国平均より下回っていたが、今年度はすべての項目で大阪市・全国平均より上回ることができた。特に「数量関係」では20ポイント以上、「図形」では25ポイント以上高い項目もあった。また、□を使った式は満点であり、日頃から粘り強く学習に取り組んできた成果が見えた。しかし、解き方の理由を言葉や数を使って書く力は弱く、国語科と同じ書くことに対する課題が見られる。

質問調査より

各項目の肯定的な回答が、「人が困っているときは、進んで助けていますか」（100%）、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」（97.2%）、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。」（94.3%）となっており、これらの項目は、大阪市・全国平均を上回る結果となっている。思いやりや人権を尊重する心情が育ってきており、子どもたちの協力して課題の解決に取り組もうとする意識も着実に高まっている。しかし、「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピューターゲーム、携帯式ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしますか」の項目では、4時間以上という回答が25.7%もあり、全国平均より8ポイントも高く、ゲームをやり過ぎている現状が明らかとなった。

今後の取組(アクションプラン)

本校では、人格の形成が学校教育の大きな目標の一つであり、学力向上に特化した教育にならないようバランス感覚を大切にして取り組みを進めてきた。学力向上は1年ができるものではなく、6年間の長いスパンを意識して取り組んできたことが、成果として表れてきている。今後もこれまで取り組んできた以下の5項目を継続していくと考える。

- 1 すべての子に確かな学力を身につけるために授業改善を行い、授業をとおして学力向上を図る。
- 2 学力の基礎となる挑む力・やりきる力を育てる。
- 3 互いに学び合い高め合う集団を育てる。
- 4 学力状況の分析を行い、課題を明らかにしてチームで学力向上に取り組む。
- 5 家庭での学習習慣が確立できるようにする。